

## V. 医療提供

### 1. 診療所

自宅に戻った脳卒中患者に対する医療提供として最も多かったのは、「高血圧の管理」で 62 件（56.4%）であり、提供方法としては「外来のみ」が 37 件（33.6%）、「訪問診療や往診のみ」が 1 件（0.9%）、「外来と訪問診療等の両方」が 24 件（21.8%）であった。

次いで、「糖尿病の管理」が 58 件（52.7%）であった。提供方法としては「外来のみ」が 37 件（33.6%）、「訪問診療や往診のみ」が 1 件（0.9%）、「外来と訪問診療等の両方」が 20 件（18.2%）であった。上記以外の医療については、提供率は 50%を切っていた（図 5-1）。

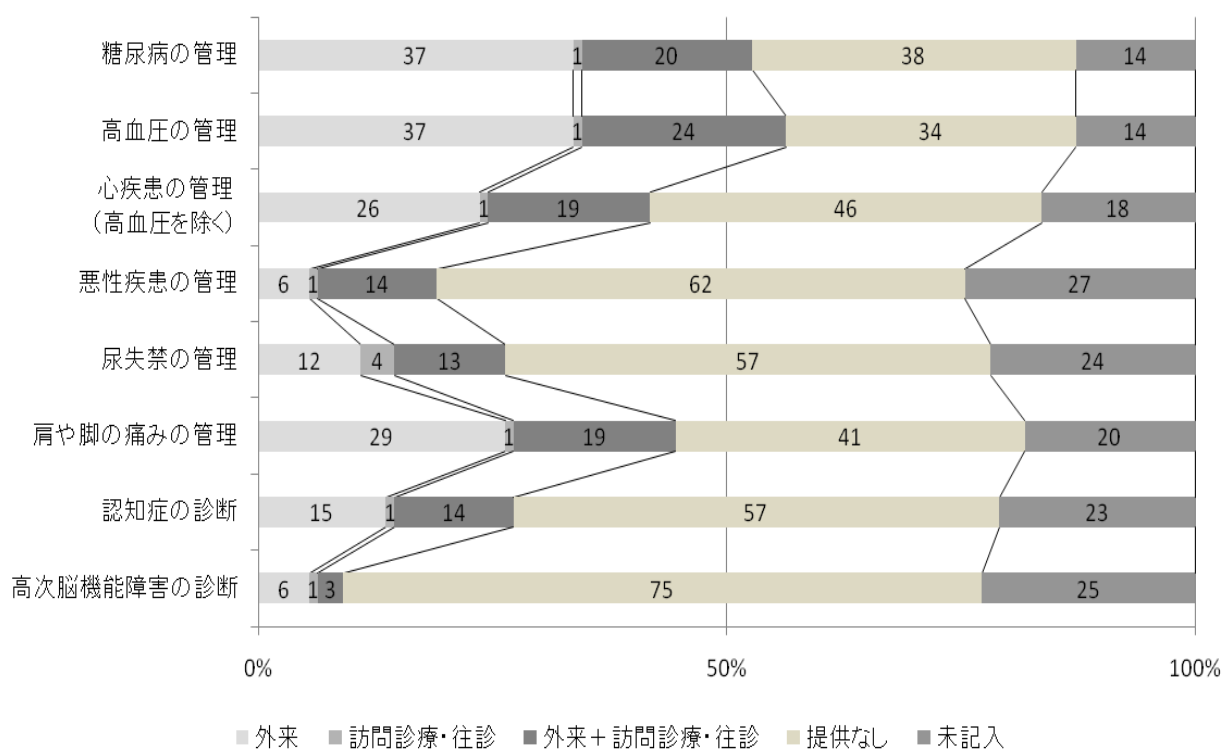


図 5-1 医療提供（診療所） n=110 （単位：件）

医療の提供内容と診療科目との関係について図 5-2 から図 5-9 に示した（外来や訪問診療もしくは往診などの提供形態は問わず集計）。

全ての提供内容において、「内科」の標榜のある診療所による実施が多く、「尿失禁の管理」の 89.7%と「肩や脚の痛みの管理」の 87.8%以外は「内科」の標榜がある診療所の関わりが提供している診療所の 90%以上を占めていた。

「糖尿病の管理」は110件中58診療所（52.7%）が実施しており、そのうち「内科」標榜があるのは55件（94.8%）であった。これは「内科」を標榜している74診療所の74.3%であった（図5-2）。

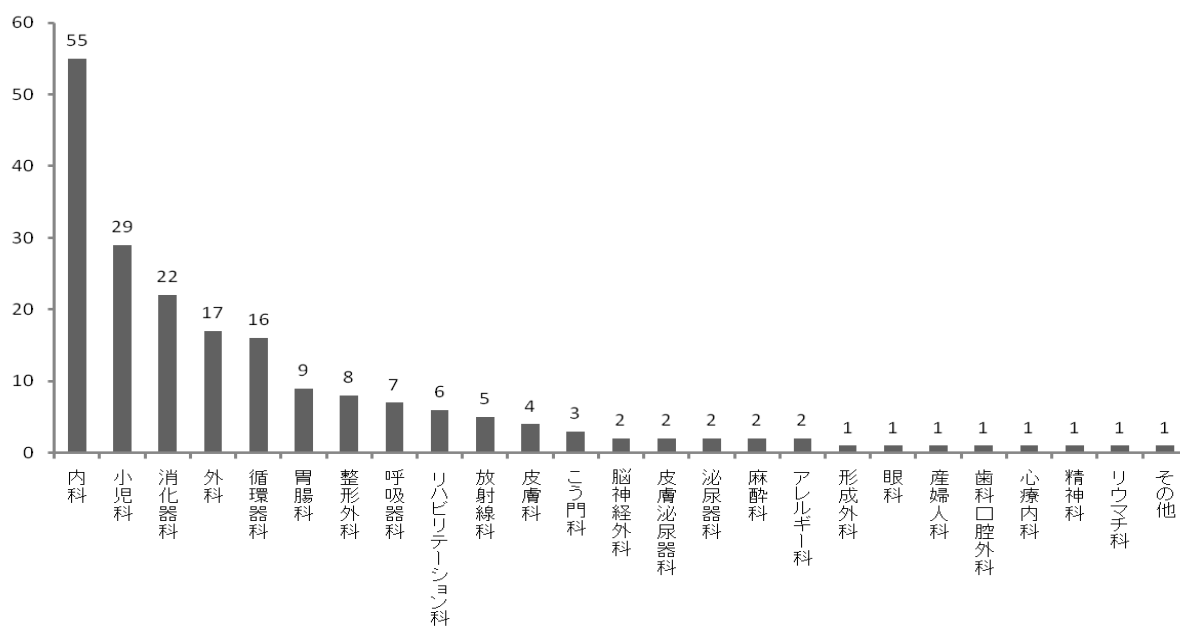


図5-2 糖尿病の管理に関わっている診療科目 n=58（単位：件）

「高血圧の管理」は110件中62件（56.4%）が実施しており、そのうち「内科」標榜がある診療所は57件（91.9%）であった。これは「内科」を標榜している74診療所の77.0%であった（図5-3）。

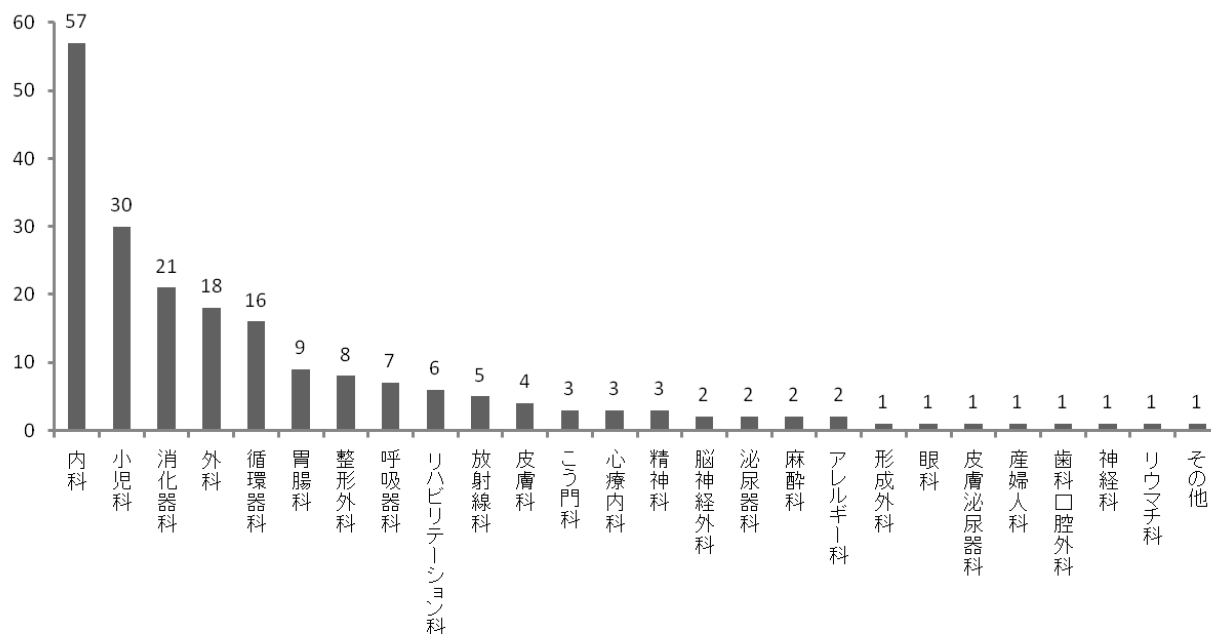


図5-3 高血圧の管理に関わっている診療科目 n=62（単位：件）

「心疾患の管理（高血圧を除く）」は110件中46件（41.8%）が実施しており、そのうち「内科」標榜がある診療所は44件（95.7%）であった。これは「内科」を標榜している診療所74件の59.5%であった。また「循環器科」を標榜している診療所16件の全てで実施されていた（図5-4）。

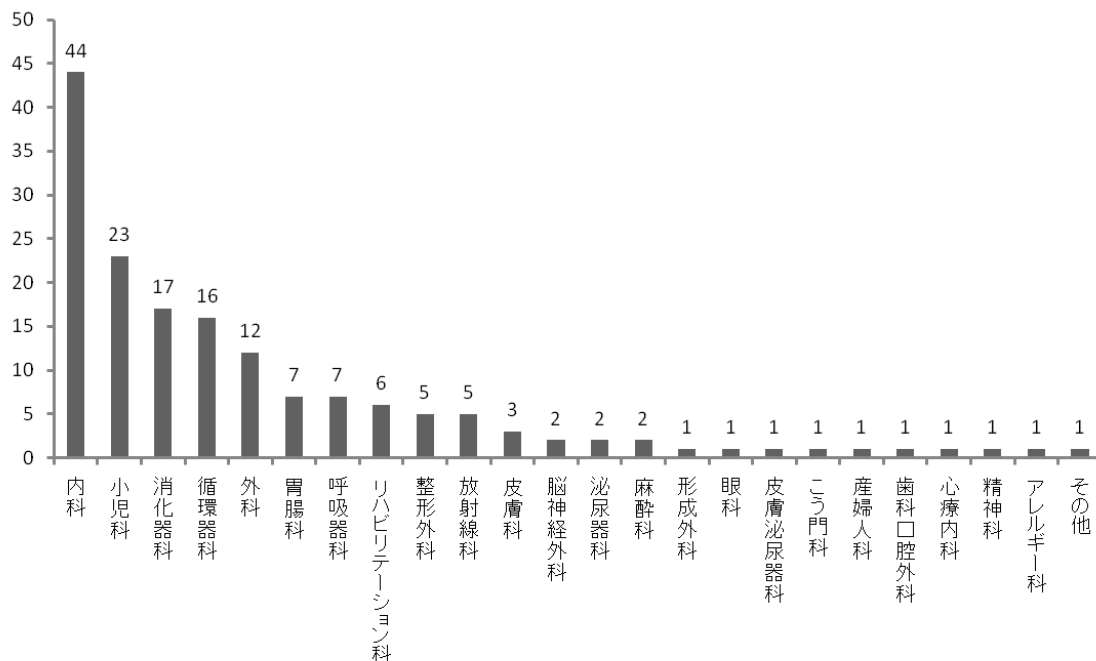


図5-4 心疾患の管理（高血圧を除く）に関わっている診療科目 n=46（単位：件）

「悪性疾患の管理」は110件中21件（19.1%）が実施しており、そのうち「内科」の標榜がある診療所は20件（95.2%）であった。これは「内科」を標榜している診療所74件の27.0%であった（図5-5）。

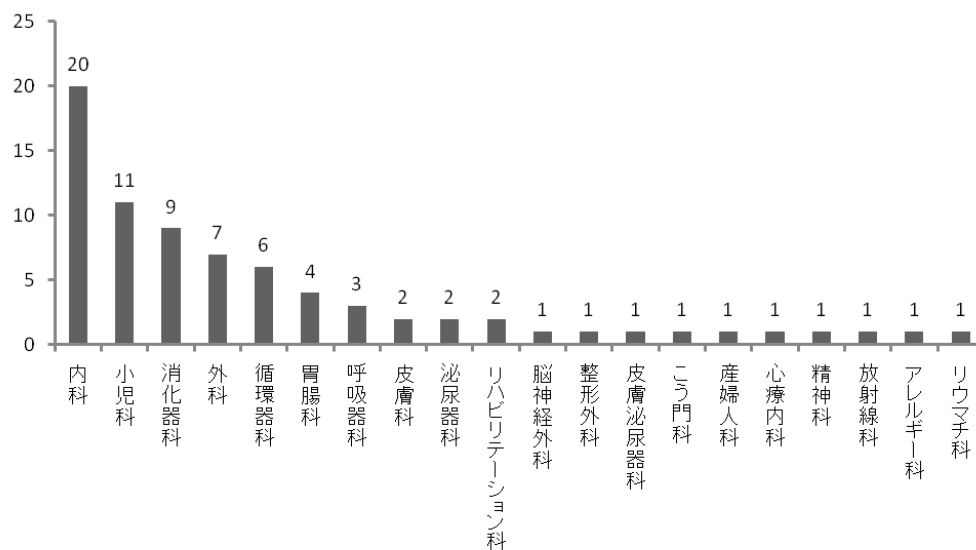


図5-5 悪性疾患の管理に関わっている診療科目 n=21（単位：件）

「尿失禁の管理」は110件中29件(26.4%)が実施しており、そのうち「内科」の標榜がある診療所は26件(89.7%)であった。これは「内科」の標榜がある診療所74件の35.1%であった。また「泌尿器科」を標榜している診療所3件全てで実施されていた。「皮膚泌尿器科」では、回答があった2件中1件が尿失禁の管理の実施を行っていた(図5-6)。

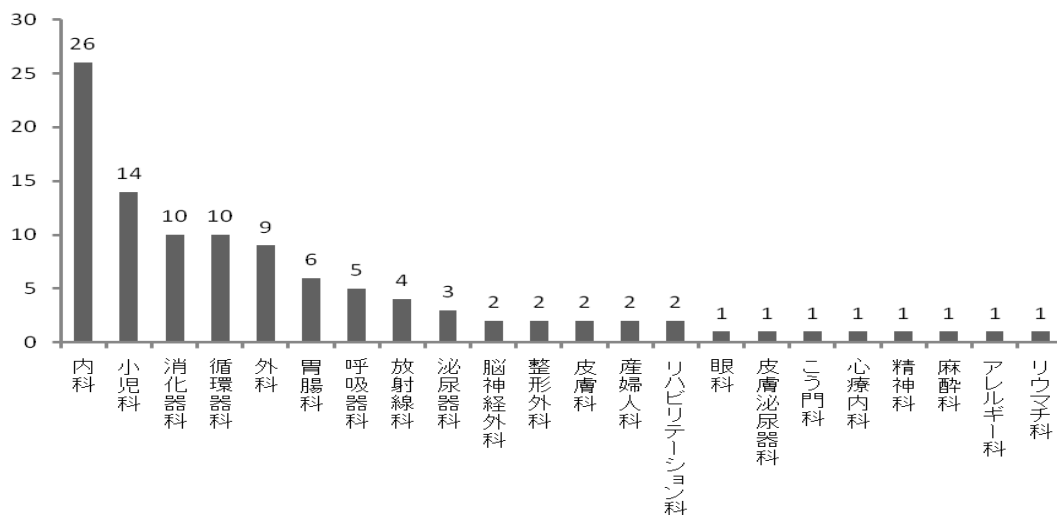


図5-6 尿失禁の管理に関わっている診療科目 n=29 (単位: 件)

「肩や脚の痛みの管理」は110件中49件(44.5%)が実施しており、そのうち「内科」の標榜がある診療所は43件(87.8%)であった。これは「内科」標榜がある診療所74件の58.1%であった。また「整形外科」の標榜がある診療所の関わりは11件であり、これは「整形外科」の標榜がある診療所14件の78.6%であった。「リハビリテーション科」を標榜している診療所の関わりは6件であり、これは「リハビリテーション科」の標榜のある診療所8件の75%であった(図5-7)。

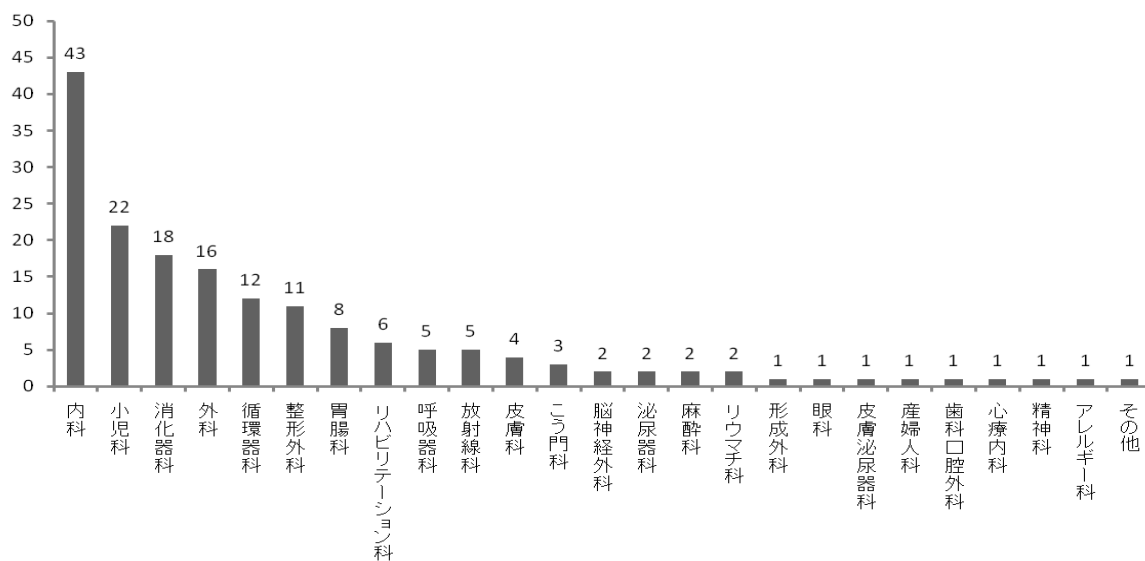


図5-7 肩や脚の痛みの管理に関わっている診療科目 n=49 (単位: 件)

「認知症の診断」は110件中30件(27.3%)が実施しており、そのうち「内科」の標榜がある診療所は27件(90%)であった。これは「内科」の標榜がある診療所74件の36.5%であった。

また、「精神科」「心療内科」を標榜している診療所については、回答があった3件全ての関わりがあった。「神経科」については回答があった診療所1件の関わりがあった。(図5-8)。

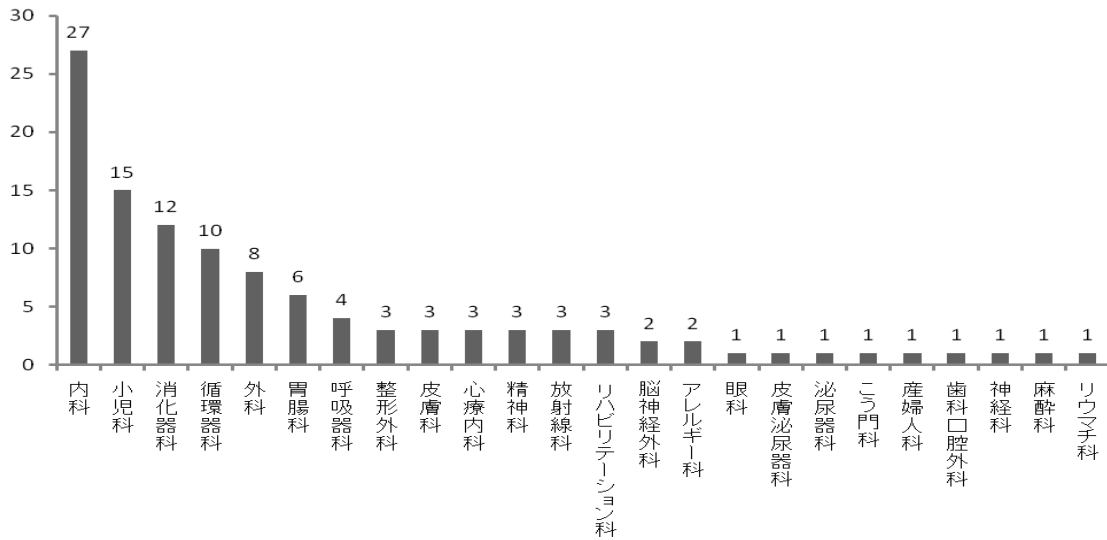


図5-8 認知症の診断に関わっている診療科目 n=30 (単位: 件)

「高次脳機能障害の診断」は110件中10件(9.1%)が実施しており、そのうち「内科」標榜がある診療所は9件(90%)であった。これは「内科」を標榜している診療所74件の12.2%であった。

また「リハビリテーション科」は2件の関わりであり、これは「リハビリテーション科」の標榜のある診療所8件の25%であった。「精神科」を標榜している診療所の関わりは2件であり、これは「精神科」の標榜がある診療所3件の66.7%であった。「神経科」と「脳神経外科」については、それぞれ標榜のある診療所が全て関わっていた(図5-9)。

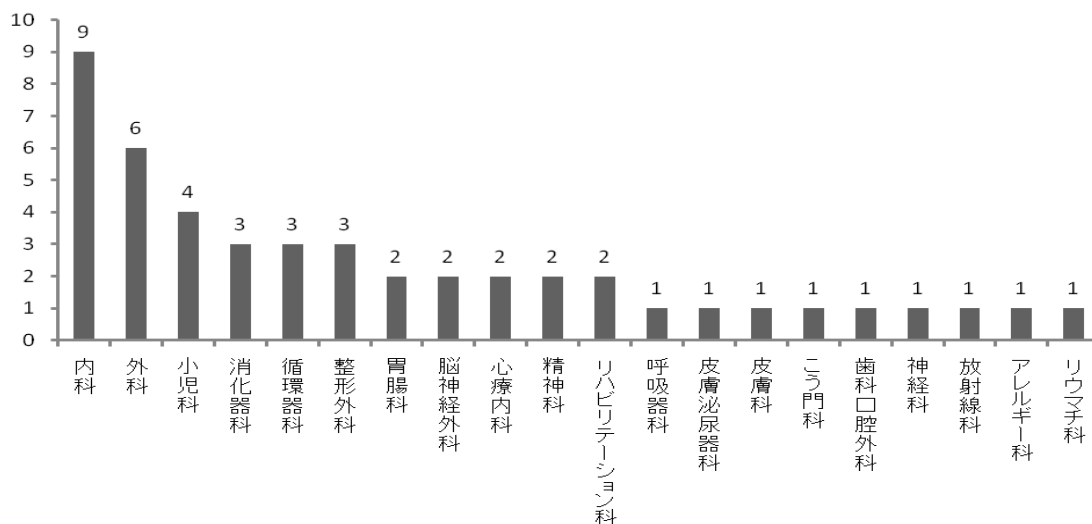


図5-9 高次脳機能障害の診断に関わっている診療科目 n=10 (単位: 件)

## 2. 病院

自宅に戻った脳卒中患者に対し、病院としてどのような医療を提供しているのか図 5-10 に示した。

「高次脳機能障害の診断」の 18.8%以外の全ての項目について、60%以上の病院での実施が認められており、母数の違いはあるが、診療所での提供状況よりも高い割合であった。また、提供形態としては、外来のみによる提供が多い状況が認められた。

なお、病院では複数科目を標榜していることが多いため、診療科目ごとの提供状況の分析は行っていない。

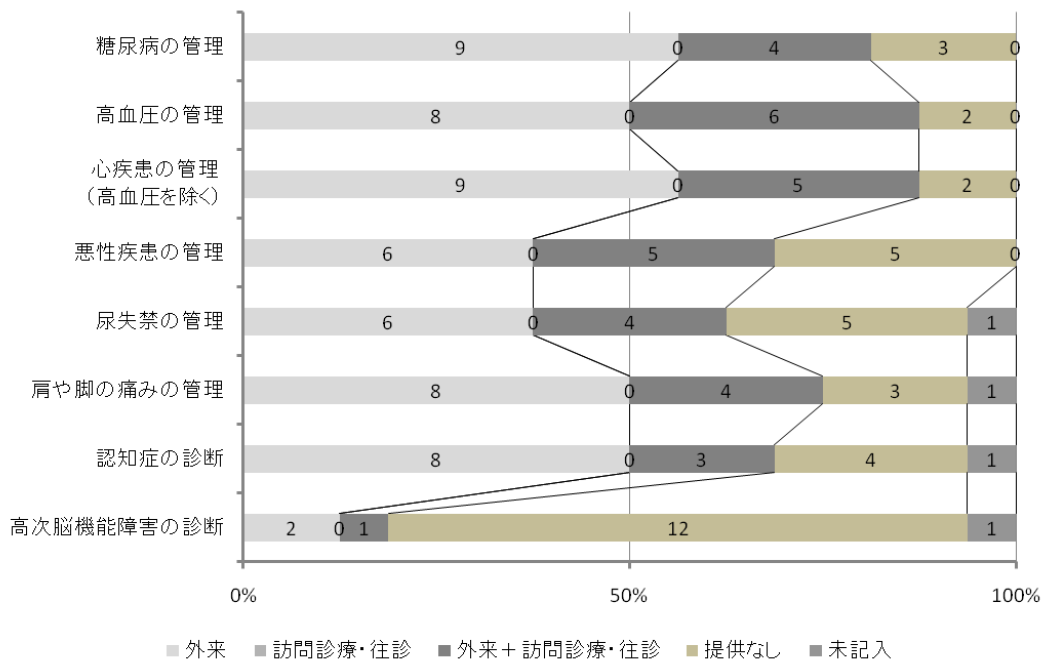


図 5-10 医療提供（病院） n=16（単位：件）

## VI. 処置の実施

### 1. 診療所

自宅に戻った脳卒中患者に対して、診療所で行っている処置として最も多いのは、「褥瘡の処置」で110件中38件（34.5%）であり、その実施方法としては「外来のみ」が17件（15.5%）、「訪問診療や往診のみ」が7件（6.4%）、「外来と訪問診療等の両方」が14件（12.7%）であった。また、「人工呼吸器の管理」を実施している診療所は認められなかった。

「HOTの管理」「経鼻栄養チューブの交換」「胃ろうの管理指導」「尿留置カテーテルの交換」「人工肛門の管理指導」については、外来と訪問診療や往診の両方で多く実施していた（図6-1）

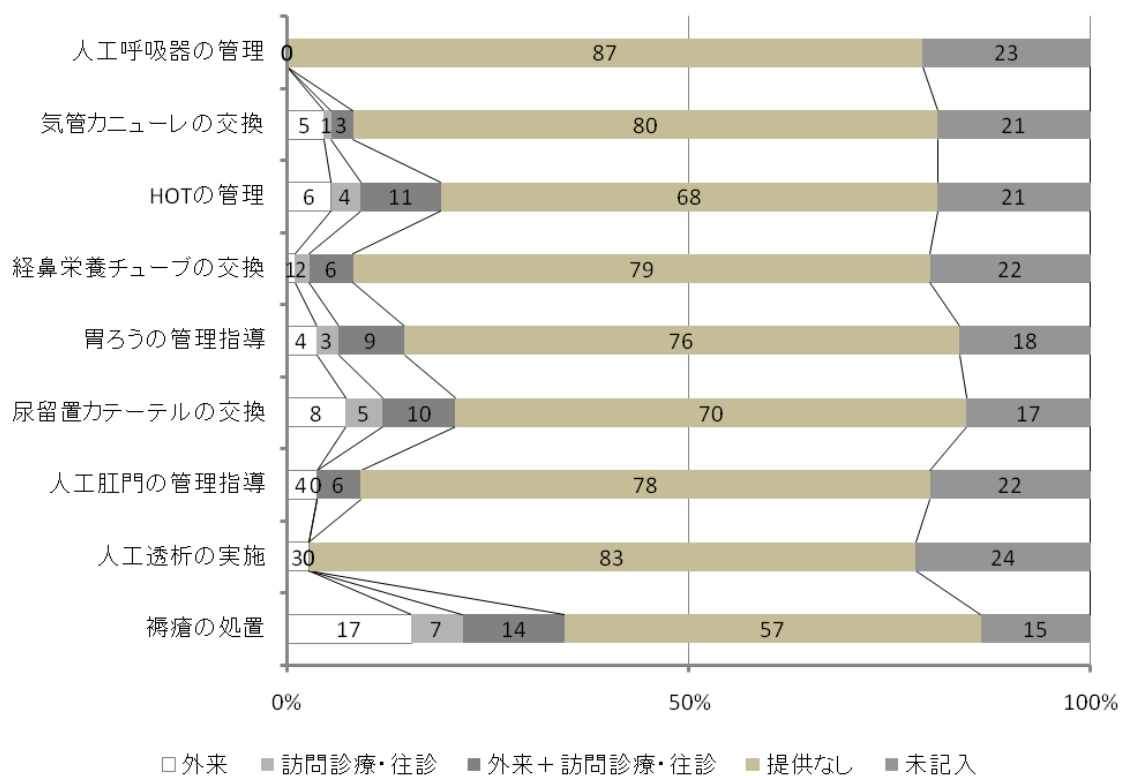


図6-1 処置内容（診療所） n=110（単位：件）

処置の実施と診療科目との関係について図6-2から図6-9に示した（外来や訪問診療もしくは往診などの提供形態は問わずに集計）

これらについても先に述べた医療提供と同様に、全てにおいて「内科」の標榜がある診療所の関わりが多い傾向が認められた。

「人工呼吸器の管理」を実施している診療所は無かった。

「気管カニューレの交換」は110件中9件（8.2%）で実施されていた。そのうち「内科」の標榜がある診療所は8件（88.9%）であった（図6-2）。

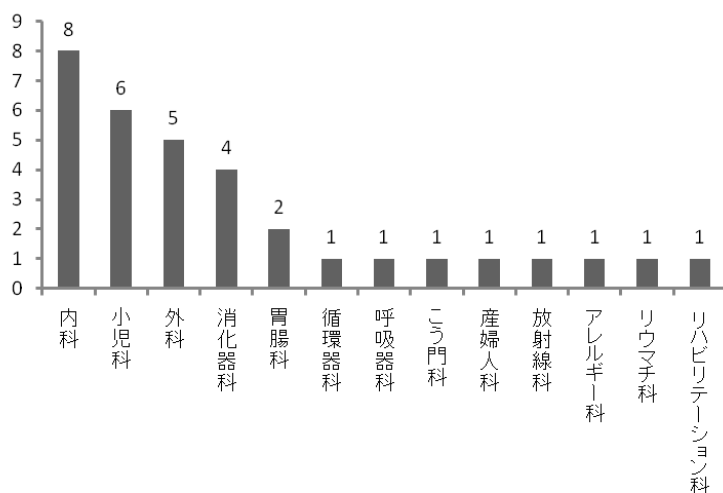


図6-2 気管カニューレの交換に関わっている診療科目 n=9（単位：件）

「HOTの管理」は110件中21件（19.1%）で行なわれていた。そのうち「内科」の標榜がある診療所は20件（95.2%）であった。また「呼吸器科」については、3件の関わりであり、これは「呼吸器科」の標榜のある診療所7件の42.9%であった（図6-3）。

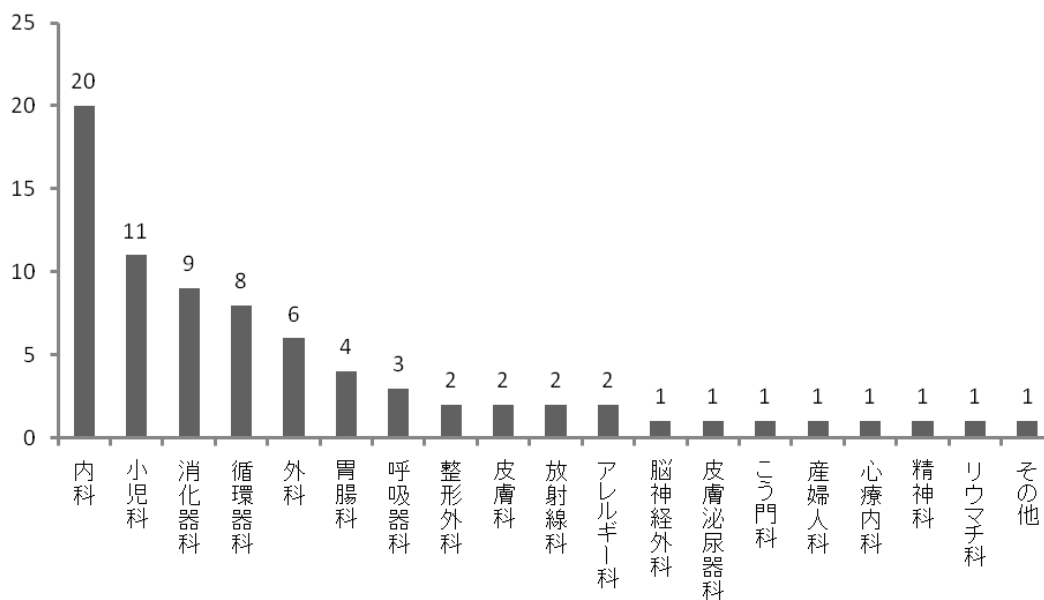


図6-3 HOTの管理に関わっている診療科目 n=21（単位：件）



「経鼻栄養チューブの交換」は110件中9件(8.2%)が実施していた。そのうち「内科」の標榜がある診療所は8件(88.9%)であった(図6-4)。

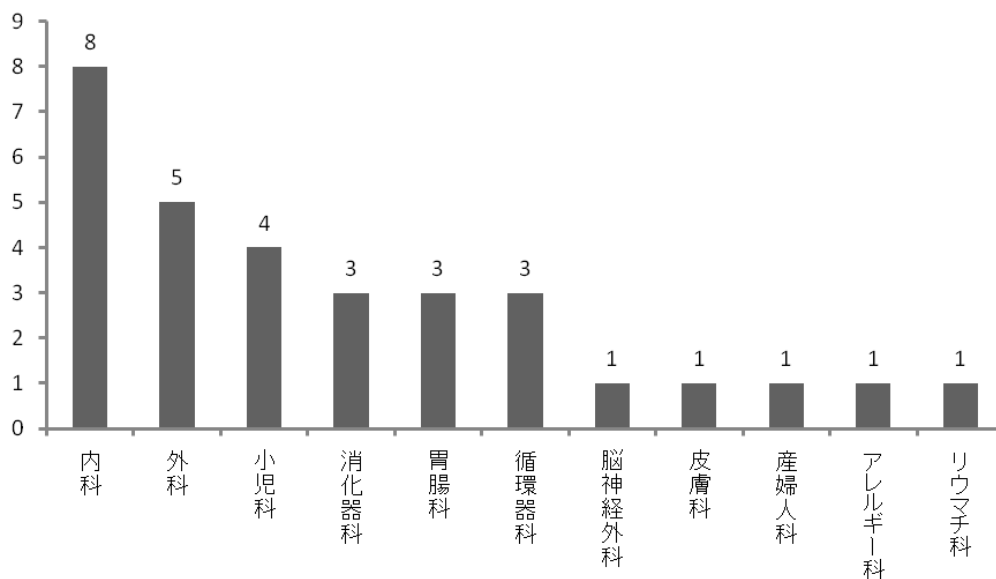


図6-4 経鼻栄養チューブの交換に関わっている診療科目 n=9 (単位: 件)

「胃ろうの管理指導」には110件中16件(14.5%)が関わっていた。そのうち「内科」の標榜がある診療所は15件(93.8%)であった(図6-5)。

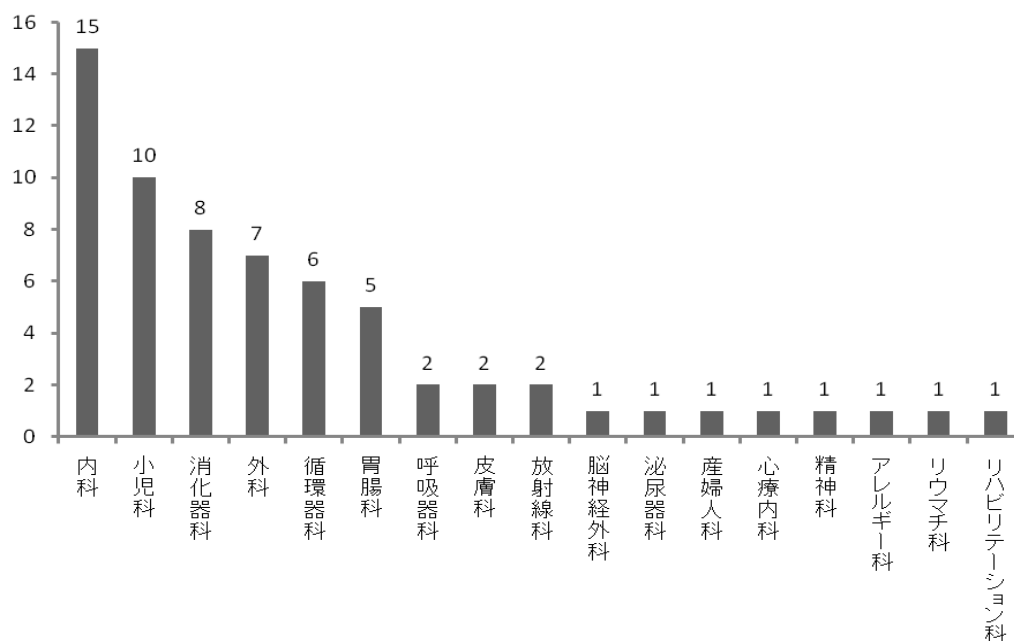


図6-5 胃ろうの管理指導に関わっている診療科目 n=16 (単位: 件)

「尿留置カテーテルの交換」は110件中23件(20.9%)が実施していたが、そのうち「内科」の標榜がある診療所は21件(91.3%)であった。また「泌尿器科」については、回答があった診療所3件の全てに関わりがあった。「皮膚泌尿器科」は2件中1件の関わりがあった(図6-6)。

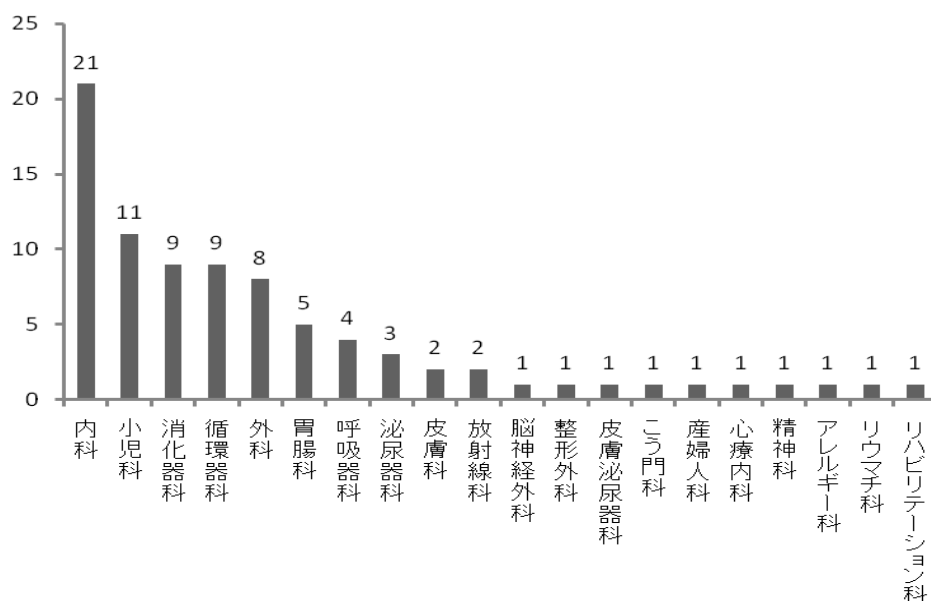


図6-6 尿留置カテーテルの交換に関わっている診療科目 n=23

「人工肛門の管理指導」は110件中10件(9.1%)が実施していた。そのうち「内科」標榜がある診療所は9件(90%)であった。また、「外科」の関わりが5件であり、これは「外科」の標榜のある診療所23件の21.7%であった(図6-7)。

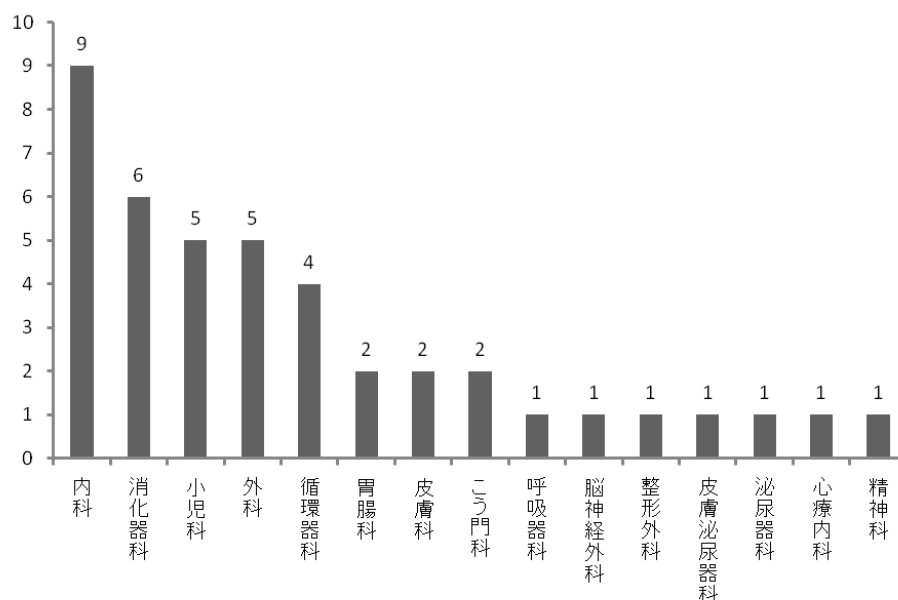


図6-7 人工肛門の管理指導に関わっている診療科目 n=10

「人工透析」は3件が実施していたが、その全てに「内科」標榜があった（図6-8）。

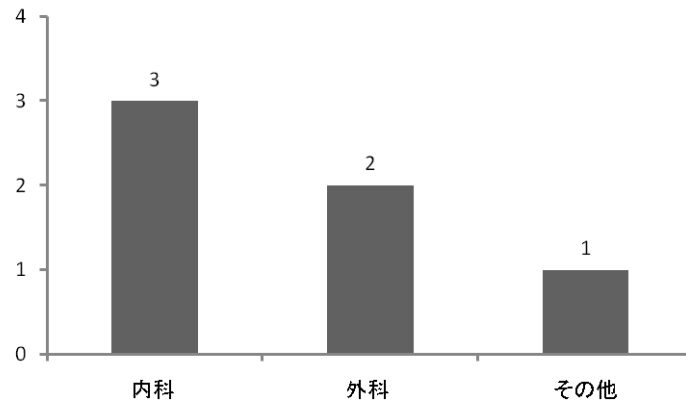


図6-8 人工透析を実施している診療科目 n=3

「褥瘡の処置」を実施している診療所は110件中38件（34.5%）であった。そのうち「内科」の標榜がある診療所は32件（84.2%）であり、これは「内科」を標榜している診療所74件の43.2%であった。また「外科」については、15件の関わりであり、「外科」の標榜のある診療所23件の65.2%であった。「皮膚科」については6件の関わりであり、これは「皮膚科」の標榜のある診療所11件の54.5%であった。「形成外科」については、回答があった2件全ての診療所で関わりが認められた（図6-9）。

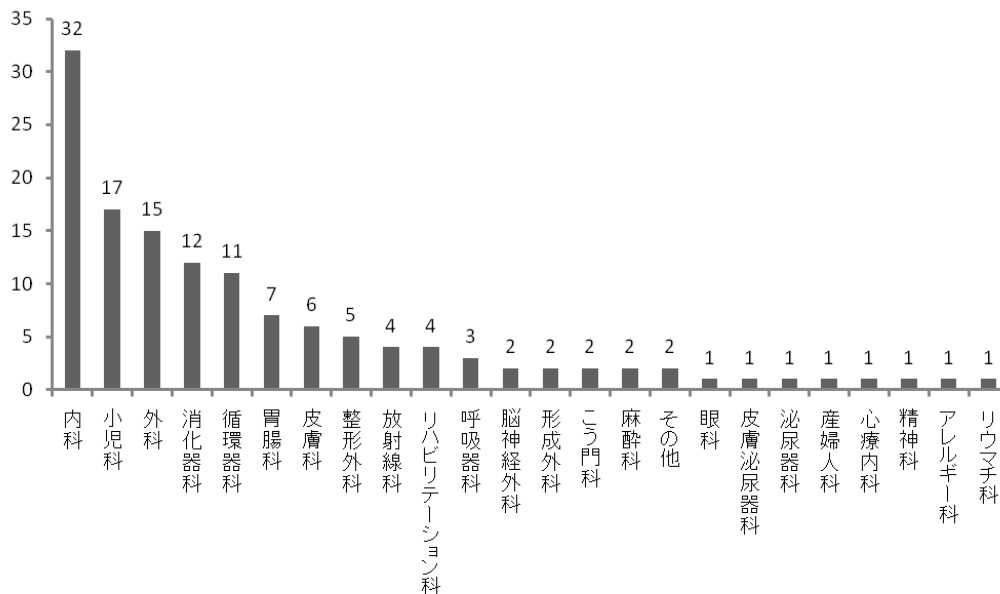


図6-9 褥瘡の処置に関わっている診療科目 n=38

## 2. 病院

自宅に戻った脳卒中患者に対して、病院が実施している処置で最も多かったのは「褥瘡の処置」で16件中12件（75%）であり、その実施方法は「外来のみ」が5件（31.3%）、「外来と訪問診療等の両者」が7件（43.8%）であった。

この他50%以上の実施があった処置内容は、「HOTの管理」「経鼻栄養チューブの交換」「胃ろうの管理指導」「尿留置カテーテルの交換」「人工肛門の管理指導」であった。一方、「人工呼吸器の管理」については2件（12.5%）、「人工透析」については1件（6.3%）の実施であった。

また、これら全てにおいて、母数の違いはあるものの診療所よりも実施割合が高い傾向がうかがわれた。

「褥瘡の処置」「経鼻栄養チューブの交換」「気管カニューレの交換」については「外来と訪問診療もしくは往診の両者」での実施率が高かった。

病院では複数科目を標榜していることが多いため、診療科目ごとの提供状況の分析は行なっていない（図6-10）。

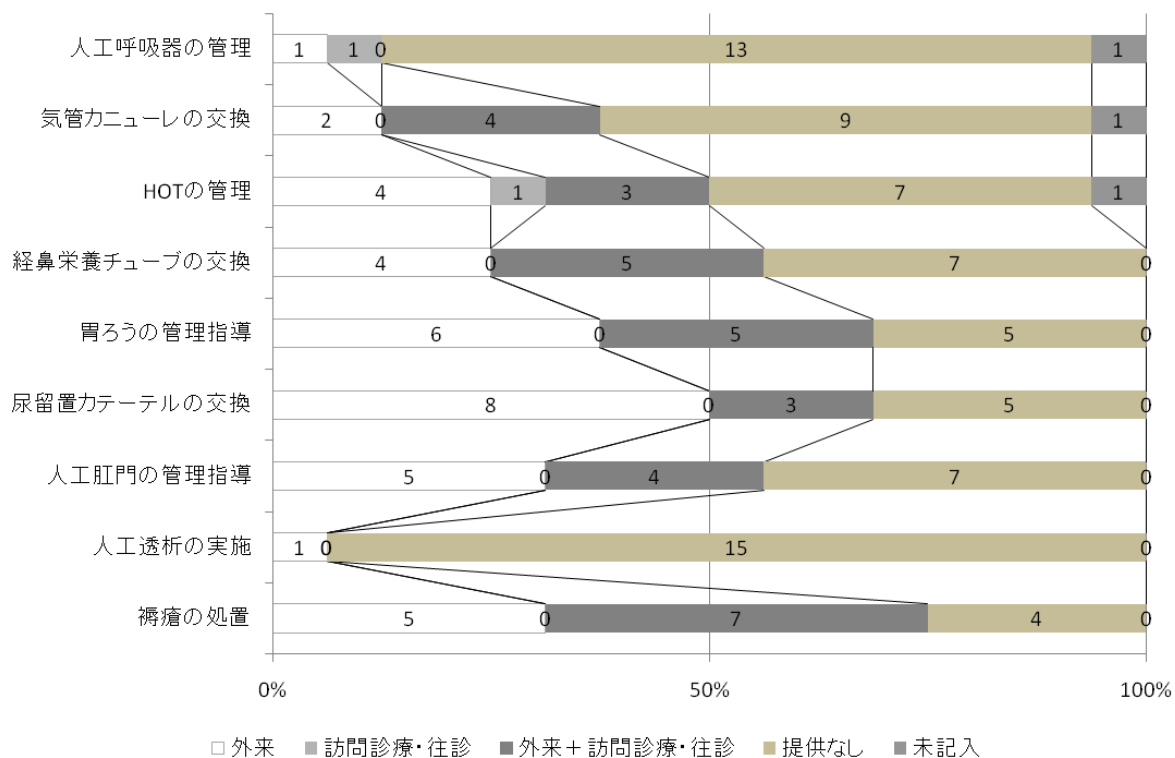


図6-10 処置内容（病院） n=16